

# 高鍋町協働推進ビジョン

◆ともに理解し合い、ともに歩み、ともに未来を築く◆



平成 28 年 8 月



高 鍋 町

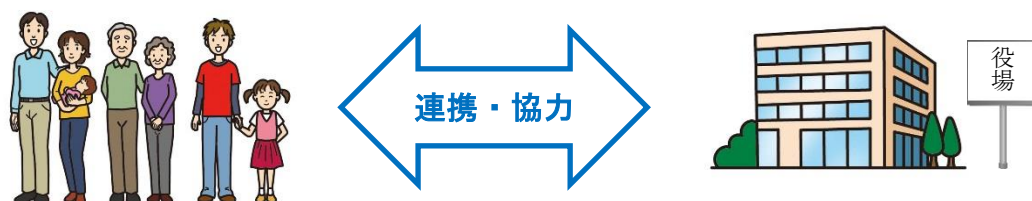
## 目次

<b>1 「協働」って何？</b> . . . . .	<b>1</b>
(1) 協働の定義 . . . . .	1
(2) 協働推進のための3原則 . . . . .	1
(3) 地域住民等の自主的な活動による協働 . . . . .	2
<b>2 どうやって「協働推進のための3原則」を実現するの？</b> . . . . .	<b>3</b>
(1) 「広聴」とは？ . . . . .	3
(2) 「広聴機会」とは？ . . . . .	3
(3) 高鍋町が求める「広聴」の姿 . . . . .	3
(4) 「広聴」に関し町行政がすべきこと . . . . .	4
ポイント① 「具体的にどのような広聴機会を設けるのか、このビジョンでは示さないの？」 . . . . .	4
(5) 「広聴」に関し地域住民等に求めること . . . . .	4
<b>3 高鍋町における協働の重要性</b> . . . . .	<b>5</b>
(1) 地域住民等と町行政との連携によるまちづくりの推進 . . . . .	5
(2) 人口減少社会、少子高齢化社会克服への挑戦 . . . . .	6
(3) 「自分たちのまちは自分たちで形づくる」意識の定着化 . . . . .	7
ポイント② 「協働の重要性は分かったけど、協働は強制されるものなの？」 . . . . .	8
<b>4 とともに理解し合い、とともに歩み、ともに未来を築く</b> . . . . .	<b>9</b>

# 1 「協働」って何？

## (1) 協働の定義

「協働」とは、『地域住民や地域の団体の皆さん（以下「地域住民等」といいます。）と行政とが共通の目的の達成に向かって、連携・協力しながら、それぞれの持つ力を発揮していくこと』をいいます。



## (2) 協働推進のための3原則

協働は、次の原則に基づき進めていかなければなりません。

### ① 相互の「尊重」の原則

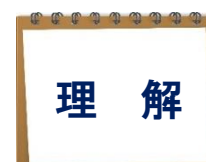
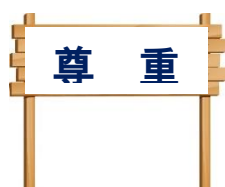
地域住民等と行政とがお互いの立場を尊重し合い、良好な関係が築かれていること。

### ② 相互の「平等」の原則

地域住民等と行政との立場が平等であること。

### ③ 相互の「理解」の原則

地域住民等と行政のそれぞれの考えや意見、主張などをお互いがよく聴き、理解し合うこと。



### (3) 地域住民等の自主的な活動による協働

高鍋町においては、(1)や(2)で述べてきたような地域住民等と行政との密接な関係に基づく協働のほかに、例えば、自治公民館活動など個人・団体が自主的・自発的に行う活動のうち、高鍋町のまちづくりや将来のまちの発展に役立つものに関しても「協働」と位置づけ、積極的な推進をお願いしていきます。

例えば・・・



地域清掃活動



まちづくりに関する座談会



地域見守り活動



高齢者との触れ合い活動

## 2 どうやって「協働推進のための3原則」を実現するの？

「協働推進のための3原則」の実現のためには、地域住民等と町行政とが、それぞれ、まちづくりに対する考え方や相手に対し何を求めているのかなどを示し合い、共通認識を持つことが必要です。

そして、そのために、「広聴機会を今まで以上に設け、充実させること」がとても重要であると考えています。

### (1) 「広聴」とは？

大まかに言うと、「行政機関が広く町民等から意見を聴くこと」をいいます。また、高鍋町では、単に意見を聴くだけでなく、行政と地域住民等あるいは地域住民等同士が対話を重ねていくことも広聴と位置付けます。



### (2) 「広聴機会」とは？

広聴を行うための場や機会のことをいいます。一般的には、「懇談会」、「懇話会」、「意見交換会」、「座談会」などがこれに該当しますが、役場窓口での対話や、例えば、インターネットを活用した意見募集なども広聴機会のひとつといえます。



### (3) 高鍋町が求める「広聴」の姿

高鍋町では、単に町に対する要望だけではなく、「将来にわたり、元気で活力ある高鍋町を築くために何をすべきか（自分に何ができるのか）」に重点を置いた広聴を進めたいと考えています。

#### (4) 「広聴」に関し町行政がすべきこと

- ① 効果的な広聴機会のあり方について考える。
- ② 広聴機会の種類（内容）、回数について考える。
- ③ 広聴の重要性や広聴機会を地域に広める。
- ④ 広聴に参画していただける地域住民等を増やす。
- ⑤ 広聴機会の場で、町の考えや見解をきちんと示す。

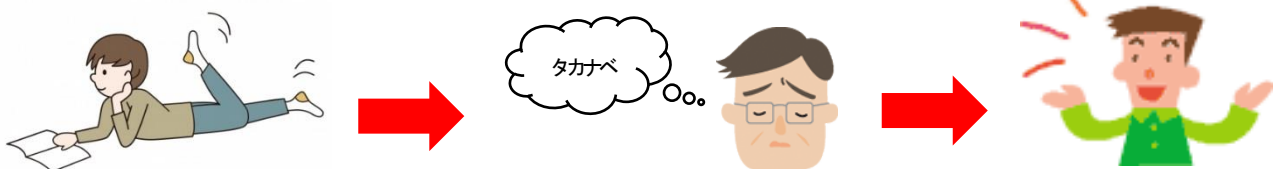
##### <ポイント①>

● 具体的にどのような広聴機会を設けるのか、このビジョンでは示さないの？

現代社会が非常に速いスピードで進み、変化し続ける中で、どのような広聴機会を設けることが最もよい結果を生むのかに関しては、上記の①～⑤を踏まえ、その時点、その状況に応じて、別途示していきたいと考えています。

#### (5) 「広聴」に関し地域住民等に求めること

- ① **情報収集**：町行政が発信するまちづくりやまちの将来像に関する情報（内容）の把握に努める。
- ② **現状把握**：高鍋町のよいところや課題など高鍋町の現状について考える。
- ③ **まちづくりへの考察**：高鍋町の住民として、これから高鍋町がどうあるべきかを考える。
- ④ **意見等の発信**：①～③を踏まえ、広聴機会の中でその声（意見）を町行政に届ける。



### 3 高鍋町における協働の重要性

高鍋町における協働の重要性（なぜ協働を進めていかなければならないのか。）については、以下のとおりです。

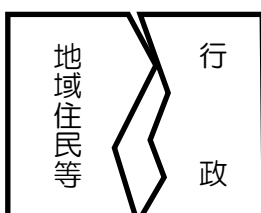
#### (1) 地域住民等と町行政との連携によるまちづくりの推進

地域住民等は、実際に高鍋町で暮らす住民として、日々の生活の中で、個人や世帯、団体単位で高鍋町の特徴（よいところ、悪いところ）を把握し、一部、その特徴を伸ばしたり改善したりするための自主的な活動は見受けられるものの、まち全体を挙げた積極的な取組を推進するための仕組みを構築することはできません。

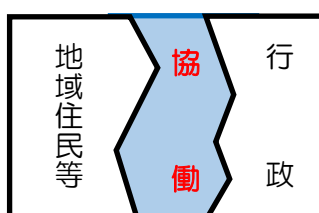
一方、町行政は、産業や福祉、教育などまちを構成する様々な分野に対し、その発展を実現させる立場にありますが、そのために行っていく活動の方向性や実際に行っている活動について、真に地域住民等に対する成果が得られているのかを単独で把握し検証することができません。

この両者を協働で結びつけることにより、それぞれの足りない（弱い）部分が補われ、高鍋町のさらなる発展につなげることが可能となります。

#### 「協働」で結びつく



このように  
結びつかないより



「協働」で  
結びついた方が  
イイよね！

## (2) 人口減少社会、少子高齢化社会克服への挑戦

今後、さらに加速的に進むであろう人口減少や少子高齢化により、まちの衰退をはじめ、都市機能の低下、高齢者を支える現役世代の減少などの大きな課題が、近い将来、現実が発生することが予測されます。

そのような背景を受け、町行政としても、今後も、元気で活力のあるまちを維持しながら、地域住民等が明るく生き生きとした生活を送ることができるために必要な施策の推進に努めていきます。

しかし、これら施策にきめ細やかに対応しながら課題を克服していくためには、地域住民等の力が何より不可欠で、お互いが共通の課題を認識しながら、どのようなことをすればよいのかについて、協働の視点に立って考え、行動するなど、「高鍋総力戦」による取組を進めていくことが大変重要です。

そして、今の子どもたちが将来社会人となったときに、今と変わらないまちの姿がきちんと引き継がれ、その中で高鍋町を愛する思いや取組が次の世代、そしてさらに次の世代へと連鎖しながら、まちが発展し続けるために、今、まさに、協働の推進が必要とされているのです。

高鍋総力戦でつくる豊かな未来！





### (3) 「自分たちのまちは自分たちで形づくる」意識の定着化

まちづくりやまちの課題克服など、高鍋町にとって必要な取組は、協働の視点に立って進めていくことが重要であることについては、(1)、(2)で述べたとおりです。

また、そこからさらに一步踏み込んで、この動きが単発的・流行的に終わるものではなく、町行政は当然ながら、地域住民等も「自分たちのまちのことは自分たちで考え、決定し、行動し、形づくる」という意識を持ち、その意識が町全体に広がり、定着化すること、言い換えれば、協働意識がまち全体に溶け込み、自然習慣的に協働が推進される仕組が構築されることも非常に大切です。

将来的には、高鍋町の町民性の特徴のひとつとして「協働意識が強いこと」や「連帯感が備わっている」ことが挙げられ、それがまちの財産となり、発展しながら引き継がれていければ、どこにも負けないすばらしいまち、魅力あるまちが形成されるのではないのでしょうか。

「協働」で支え合うまち「高鍋町」



## <ポイント②>

### ●協働の重要性は分かったけど、協働は強制されるものなの？

これまで述べてきたように、これからの高鍋町において、協働意識を持ち、協働の視点に立った取組を進めることは非常に重要です。

しかしながら、高鍋町で暮らす地域住民等は、それぞれ様々な価値観や考えを持ち、職業や生活環境、家庭環境の違いにより求めるものも異なります。

また、「私は高鍋町で普通の暮らしを送ることができればそれでいい」と考える方も数多くいらっしゃると思われます。

協働は、その個々の意思に反してまで強制するものでも、強制されるものでもありません。

ただし、繰り返しになりますが「これからの高鍋町のためには、協働意識が浸透し、協働の視点に立った取組が重要である」ことはぜひ御理解いただき、「高鍋町をこうしたい」という考えがあれば、その声を町行政に届けていただくとともに、「自分の力を地域に生かしたい」、「高鍋町のまちづくりに携わってみたい」という思いがもし湧き上がってくれば、ぜひ、協働による取組に積極的に参画していただきたいと考えています。

## 4 ともに理解し合い、ともに歩み、ともに未来を築く

本ビジョンにおいては、協働の具体的な取組については示しません。それは、これからの協働による取組を固定化せずに多様な可能性を追求できるようにすることと、高鍋町における協働は、地域住民等の主体性を最重視するものでありたいということからです。

しかしながら、どのような取組であっても、その本質は不変であり、それは、これまで述べてきた協働への道筋をきちんと認識しながら、本ビジョンの副題にもあるとおり「ともに理解し合い、ともに歩み、ともに未来を築く」ことにあります。

この本質さえ地域住民等と町行政とが等しく共有できれば、必ず希望に満ちた明るいまちを創造し、維持することができると確信しています。

協働の推進に当たっては、地道な積み重ねが求められ、成果が現れるまで一定の期間を要することもあるかもしれませんが、今の子どもたちのため、高鍋町に住む町民が「高鍋町に住んでよかった」と思ってもらえるまちづくりの推進のため、そして何よりこれからの高鍋町のために、本ビジョンに基づく協働推進の重要性と取組への積極的な参画について、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。



ともに理解し合おう！

ともに歩みましょう！



ともに未来を築こうよ！



高鍋町協働推進ビジョン  
～ともに理解し合い、ともに歩み、ともに未来を築く～

平成28年8月 発行

発 行：高鍋町政策推進課  
住 所：宮崎県児湯郡高鍋町大字上江8437番地  
電 話：0983-26-2018  
ファックス：0983-23-6303  
メー ル：seisakusuishin@town.takanabe.miyazaki.jp